



未来の高山  
「今よりよい、高山に向けて」

丹生川中学校1年 鴻巣 一葉

ふと、外を見れば雄大な山々が街を囲み、澄み渡る青空が広がっている。さわやかな空気の中、小鳥の音が響きわたる。

ここ、高山市は日本三大美祭の一つ、高山祭の地として有名である。全国、そして海を越えて海外からも観光客がやってくる。実際に古い町並を歩くと、多くの外国の方と会うことができる。また、飛騨を代表する食べ物といえば「飛騨牛、トマト！」今や大都市の東京、名古屋、大阪などでも売られる全国品となっている。

だが、高山市には、今、ある問題がおきている。一つ目は「過疎化」だ。十一年前に合併したこの市は、市外から見れば、福祉、観光、自然の面で発展しており、人口も多い市なのでは？と思うだろう。しかし、人口にはかたよがりがある。例として挙げるのは高根町だ。小、中学校は廃校になっており、となりの朝日町と統合している。朝日小学校の友達と昨年、学校について話したことがあるが、聞くと、なんと高根町には小学生が片手の指の数におさまる人数しかないという現実を知ったのである。何とさびしいことだろう。

二つ目は「旧郡部の観光客が少ない」ということだ。高山祭が春、秋に行われるので、市街地には何万人、何十万人も観光客が来る。しかし、旧郡部はよほどの大きなイベントがない限り、観光客は来ず、その町の良さを知らずに帰ってしまう。

そこで、この二つの問題を解決するために私は、それぞれに解決策を提示したい。

一つ目は「高山に來んとだしかんさ」作戦である。「地域おこし協力隊」の制度を取り入れてみてはどうだろうか。中日新聞に以前、掲載されていた記事によると、これは岐阜県の多くの自治体を取り入れているそうなのだ。具体的には次の内容である。過疎化の進む地域の自治体が都会住民を受け入れる。そこから一〜三年間の期間中、地域おこし協力隊として、農業、水源保全、

住民生活などを支援し、協力活動にたずさわる。そうすることでその地への関心を深めて、定住を図るといふ制度なのだ。後で調べてみると飛騨地域では三市一村のうち、高山市以外の市、村が制度を利用していった。白川村の協力隊のフェイสบックを見ると、田植えの手伝いをしたり、劇団と二緒に活動したり、たくさん写真がのっついていて、それに対してのコメントも多かった。フェイสบックの影響で観光客はもつと増え、移住者もいるらしい。

二つ目は「高山観光のお供にジュニア製作MAP、新聞作戦」である。高山市の全小、中学校でちがう町を紹介する新聞や配布できるマップを作ったらどうだろうか。

例として朝日町は久々野町、久々野町は高根町と九町がちがう町のことを紹介すればいい。なぜ、自分の町のことを紹介しないのか。それは、広い高山市の事を、一市民としていろいろ知ってほしい。他の町のことも知って市外の人に、いろいろ説明できるようになってほしいからだ。これは、観光客の多い市街地のお店に貼らせてもらおう。それにより、旧大野郡、吉城郡のことまで知ってもらえる。

この取り組みを全小、中学校で実施するには綿密な計画を立てなければならぬ。そこで、まずその学校で10人ほどの新聞チームを作る。そして新聞チームが集まる話し合いの場を設け、自分の町のことを発表する。その町を担当する学校は、それをもとに新聞やMAPを作るようにする。それぞれの町のイベント、おすすめ場所、おいしい食べ物などその町のよさがつまった新聞、MAPができる。それを駅や、商店街などに掲示させてもらったり、MAPとして観光客に配ったりすれば高山市の良さがもつと広く伝わるのではないだろうか。

私は、この高山市が好きだ。私のふるさと高山市が大好きだ。人が温かい。自然がとても豊か。歴史のある町並みが今も残る。こんなに良い市なのだ。だから、今起こっている問題を解決し、未来の高山について、次世代の私達が考え、今よりもつとよい、笑顔あふれる高山市をつくっていききたい。

守りたい人がいる  
守りたいまちがある

シリーズ消防団 No.7  
高山支団第6分団

高山支団第6分団は、川上川を境とした市内北西部エリアをカバーしています。

管内には、中部縦貫道高山ICや国道41号高山国府バイパスがあり、交通量や交流人口が増加しております。また、宮川や川上川が流れ、田畑地帯が広がり、景観の素晴らしい地域であります。

このような地域を守るべく、団員は毎月2回の機械器具点検、春季、秋季等の訓練を欠かさず行い、いざという時のために準備を整えています。

今年度開催された、高山支団消防操法大会において6分団2班（上切班）は優勝、1班（下切班）は準優勝を果たし、日頃の訓練の成果を十分に発揮されました。

草場分団長／班数2／団員数33人



高山支団第6分団 草場分団長以下団員のみなさん

消防団員募集中!

詳しくは消防総務課（☎ 34-3792）または  
各支所、最寄りの消防署まで